

双日株式会社 大阪個人株主説明会（2023/9/19 開催）

質疑応答要旨

<回答者>

代表取締役社長 CEO	藤本 昌義
常務執行役員 CFO	渋谷 誠
執行役員 金属・資源・リサイクル本部長	松浦 修

Q PBR1 倍超に向けた取り組みと 1 倍を達成した場合の最終的なゴールについて

A <藤本> 一番大切なことは、稼ぐ力が 1,000 億円のレベルまで来ている上昇トレンドが確実なものとの安心感を皆様を持っていただくこと、そういった信頼を得ることです。そして、次期中計では 1,000 億円、更には 1,500 億円という上昇の軌跡を作っていくことだと思います。PBR1 倍を超えた後の最終的なゴールについてのお約束はできませんが、PBR1 倍超は一つの通過点とお考えいただきたいと思います。

Q 金利変動の当社事業への影響について

A <藤本> 商社の決算においては、海外の事業会社で獲得したドルを円に換算する際に、円安の方が収益が大きくなる面もあります。ドル金利への対策は既に打っており、円については大半を長期の固定金利で抑えていますので、金利が多少上がった場合でも当社の業績には大きな影響はないと考えています。また、不動産市況による影響も小さいと考えております。

A <渋谷> 為替に関し、円が安い状況では、当社決算ではプラスの要因になりますが、一方で成長に向けた海外での新規投資の場面では、割高な買い物となる環境となります。金利や為替が多少変動しても大きな影響を受けないような取り組みを日々行っています。

Q ウクライナの復興に関する取り組みについて

A <藤本> 昨年 JICA の支援のもとで、トラックを地雷除去用としてウクライナに届けました。トルコの病院事業での協業先は前向きな姿勢を示していますので、例えば病院事業の立ち上げなど、復興に資するようなプログラムがあれば関わっていきたいと思っています。

Q 金属・資源・リサイクル本部の成長戦略について

A <藤本> 資源のない日本において、資源の供給は総合商社としての使命ですので、今後も資源と非資源のバランスをとって取り組んでいこうと考えています。

A <渋谷> 資源事業が多いことに関しては、資源の市況が上がった時にはいかにその収益を認識できるか、逆に市況が下がった時にはマイナス要素をいかに防ぐか、といった形で、会社全体の収益構成を考えています。社長が申したように、今後も資源ビジネスは積極的に投資を行

っていく事業の一つではありますが、非資源事業を着実に伸ばし会社全体の収益を底堅く成長させ、その上に資源事業のプラスが出てくればそれをしっかり収益として獲得して、またそれを新しい投資の方に回していくことを全社的な経営として行っています（資料 P.10）。

Q 中国との今後のビジネスについて

A <藤本> 現在、当社の利益に占める中国ビジネスの割合は小さく、化学品の国内のトレードなど中国だけで完結するビジネスが中心です。現在、本社から中国への直接投資の予定や、投資拡大の方針也没有。中国においては、今後もトレードを中心とした事業展開となると考えています。

以上